正誤表

本書に下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

正誤箇所	誤	正
37 頁〇行目 共著者氏名	金子典代[2)]	田中 希妹[2)]
37 頁〇行目 共著者所属	2) 名古屋市立大学看護学部	2）京都大学大学院医学研究科　周産期疫学教室　博士後期課程
37 頁〇行目以降 抄録本文	Ⅰ．背景・研究目的 イスラム社会は、婚前交渉、婚外交渉はタブー視されており、結婚前の性行為についての情報提供は困難な状況にある。イスラム教徒が多く宗教的に性規範があるインドネシアと、いわゆる“はどめ規定”が存在する日本の、２国の SRH 教育の違いを知り日本の SRH 教育について示唆を得るために実施した活動を報告する。 Ⅱ．実践内容 文献レビュー後、在日インドネシア人看護師 1 名に、インドネシアにおける家族計画や性教育の実態についてインタビューを行った。 Ⅲ．結果・考察 SRH 教育の開始年齢が若年であること、宗教毎の SRH 教育実施のほか家族計画政策は理解を得られていることがわかった。本活動だけではインドネシアの女性が受けてきた SRH 教育の実態は明らかになったとはいえない。 Ⅳ．今後の課題 日本での SRH 教育を検討する上で示唆を得るには不十分であった。イスラム教徒のコミュニティに対象を拡大し詳細に検討していく。世界基準に沿った SRH 教育の実現に向けて活動を継続していく。	Ⅰ．背景・研究目的 インドネシアでは、助産師がSRHサービスの一つである避妊法の提供に大きな役割を担っている。そこで、日本の助産師の役割拡大を目指して、現地助産師の具体的な役割やサービスを受けた女性の認識を調査した活動を報告する。 Ⅱ．実践内容 2023年6月にインドネシアバリ島の病院、助産師が運営するクリニックを訪問した。 Ⅲ．結果・考察 産後のカップルに対して避妊法の相談を含めた家族計画に関するカウンセリングが行われていた。また、現地で出会った女性の意見として、助産師を妊娠出産時だけでなく家族計画を考える中での支援者として認識しているという意見があった。 Ⅳ．今後の課題 多民族国家である日本で暮らすすべての人が SRH を享受できるよう活動を継続しながら、助産師の役割拡大において日本で有効な方法をタスクシフトの流れを汲みながら検討する。